

環境問題に関する事項（概況）

1. 地球温暖化対策

2020 年度の製薬業界の進捗状況を調査して経団連および厚生労働省に報告書を提出し、厚生労働省による低炭素社会実行計画フォローアップ会議にて日薬連の取り組みを説明した（会議に関しては C O V I D-19 の影響により 2019 年度報告のフォローアップ会議が 2021 年度に開催され、2020 年度フォローアップ会議は 2022 年度に開催される予定）。また、カーボンニュートラルへの対応として、長期ビジョンと 2030 年目標の見直しを行い、長期ビジョンとして「2050 年 C O 2 排出量ネットゼロ」、その 2050 年カーボンニュートラル達成のため、2030 年までの目標を 2013 年度比で 25%削減から 46%削減に引き上げた。

- (1) 経団連低炭素社会実行計画（2020 年度目標）への対応
- (2) 厚生労働省低炭素社会実行計画フォローアップへの対応
- (3) フロンの排出削減
- (4) 日薬連低炭素社会実行計画フェーズⅡ目標の見直し

2. 省資源・廃棄物対策

経団連が 2016 年度以降、「環境自主行動計画」から名称を新たにして取り組みを継続する「循環型社会形成自主行動計画」に引続き参加するとともに、製薬業界独自の自主行動計画（第 5 期自主行動計画）に基づき、2020 年度の目標に対する進捗状況を調査し、結果を経団連に報告した（第 5 期自主行動目標を全て達成）。また、2019 年度に設定した 2030 年を目標とする“廃プラスチック再資源化率目標”に加え、2025 年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標、「経団連第五次目標」並びに「日薬連独自目標」を確認した。医療系一般廃棄物問題については、関係省庁、外部業界団体・協議会に積極的に対応した。

- (1) 経団連環境自主行動計画（循環型社会形成自主行動計画）への対応
- (2) 経団連環境自主行動計画に関するフォローアップ体制の維持
- (3) 2025 年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標の確認

3. 環境セミナー

2021 年に引き続き、C O V I D-19 の感染予防に配慮したウェビナー形式により、

近年の行政当局の方向性や最新規制情報・技術紹介などの共有を目的とする第2回環境セミナーを開催した。

環境問題に関する事項

1. 地球温暖化対策

2020年度を目標年度とした「日薬連低炭素社会実行計画」が2013年度から始まり、製薬業界の進捗状況を調査して経団連および厚生労働省に報告書を提出した。さらに、厚生労働省による低炭素社会実行計画フォローアップ会議にて日薬連の取り組みを説明した。

(1) 経団連低炭素社会実行計画（2020年度目標）への対応

日薬連進捗管理係数を使用するフェーズⅠ目標に対する2020年度のCO₂排出量は176.9万t・CO₂であり、基準年度である2005年度の排出量231.7万t・CO₂に対して54.8万t・CO₂の削減、2021年度比では5.1万t・CO₂の増加となった。また、2020年度目標（178.4万t・CO₂）に対して、1.5万t・CO₂下回った。また、調整後排出係数を使用するフェーズⅡ目標に対する2020年度のCO₂排出量は205.9万t・CO₂であり、基準年度である2013年度の排出量256.5万t・CO₂に対して50.6万t・CO₂の削減、2021年度比では、7.4万t・CO₂の削減となった。

(2) 厚生労働省低炭素社会実行計画フォローアップ会議への対応

例年3月末に開催されていたフォローアップ会議は、COVID-19の影響により2021年7月に開催される予定である。2021年度には2019年度報告のフォローアップ会議にて取り組みの説明をした。

(3) フロンの排出削減

定量吸入剤の使用に伴い排出されるフロンの排出削減に関する自主行動計画は、2014年度まで減少傾向となった。また、2020年度の排出量は94トンであり、2021年度より8トン増加したが、2014年度に見直した目標110トン以下は維持できた。昨今の吸入剤の市場が増加見込みであるが、この目標値以下を維持していきたい。

(4) 日薬連低炭素社会実行計画フェーズⅡ目標の見直し

2020年10月に菅総理（当時）が「2050年までの温室効果ガスの排出を全体

としてゼロとする」宣言を示し、これを受けて、2020年12月に政府は「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を公表した。経団連では2020年12月に「2050年カーボンニュートラル（Society 5.0 with Carbon Neutral）実現に向けて」を公表し、2021年6月には、これまでの低炭素社会実行計画を「カーボンニュートラル行動計画」とする「グリーン成長の実現に向けた緊急提言」を行った。

これらを受け、2050年カーボンニュートラルに向けて、「2050年CO₂排出量ネットゼロ」を長期ビジョンとし、「CO₂排出量を2030年度に2013年度比で、46%削減（研究所・工場・オフィス・営業車両）」をフェーズⅡ目標（2030年目標）とする見直しを行った。

また、合わせて以下の施策に取り組んでいくことを定めた。

1)各団体が「2050年カーボンニュートラル」に向けたビジョン及び目標を開示する。

2)会員企業へ「2050年カーボンニュートラル」に向けたビジョン及び目標設定を促す。

3)目標設定企業名を各団体のホームページに記載する。

4)再生可能エネルギー及び脱炭素技術の情報共有と導入推進を図る。

2. 省資源・廃棄物対策

日薬連は、経団連が「環境自主行動計画」から名称を新たにしていり取り組みを継続する「循環型社会形成自主行動計画」に参加するとともに、製薬業界独自の自主行動計画（第5期自主行動計画）を策定し、2016年度より取り組みを開始している。

また、医療系一般廃棄物問題については、関係省庁、外部業界団体・協議会などでの会合・協議にも積極的に対応した。

（1）経団連環境自主行動計画（循環型社会形成自主行動計画）への対応

経団連の環境自主行動計画のフォローアップ調査に合わせて、製薬業界の2020年度における進捗状況を調査し、結果を経団連に報告した。

2020年度の産業廃棄物最終処分量は5.9千トンであり、基準年度（2000年度）比79.8%減で、目標（70%程度削減）を達成した。また、基準年度（2000年度）に対する2020年度の廃棄物発生量原単位（廃棄物発生量／医薬品売上高）の改善度合いは56.3%（目標50%）、2020年度の廃棄物再資源化率（再資源化量／廃棄物発生量）は63.8%（目標55%以上）と共に目標を達成した。

(2) 環境自主行動計画に関するフォローアップ体制の維持

2016 年度に日薬連環境委員会内に設置したワーキンググループを中心に、2020 年度実績を調査した。

(3) 2025 年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標の確認

2019 年に新規設定した「2030 年度の廃プラスチック再資源化率を 65%以上にする」に加え、2025 年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標（経団連第五次目標）として「2025 年度の産業廃棄物最終処分量を 2000 年度実績比 75%程度削減する」および日薬連独自目標として「2025 年度の産業廃棄物再資源化率を 60%以上にする」を確認した。

3. 環境セミナー

2021 年に引き続き、C O V I D - 19 の感染予防に配慮したウェビナー形式により、行政当局の方向性や最新規制情報・技術紹介などの共有を目的とする第 2 回環境セミナーを 2 月 25 日（金）に開催した。

省庁及び民間企業より講師を招き、「カーボンプライシングの今後の方向性」（経済産業省）、「C O P 26 の結果と今後の展望について」（環境省）、「三菱ケミカルにおけるサーキュラーエコノミーへの取り組み」（三菱ケミカル株式会社）を公表頂いた。委員会からは活動報告として「日薬連低炭素社会実行計画の取り組み」、「日薬連循環型社会形成自主行動計画の取り組み」を発表した。セミナー終了後、期間限定で全講演内容の動画を Y o u T u b e に掲載した。